

年 表

(凡例=●：築田氏関連／◇：全体史関連)

西暦（年号）	主 　　な 　　出 　　来 　　事
935（天慶 2）	●平将門の乱（～940） 将門は一族との合戦から国衙との合戦に拡大。国府の印璽（いんじ）を奪ったことで、朝廷への反乱とされた。「親皇」と自称したが、平貞盛や藤原秀郷らの追討軍により討たれ乱は収まる。築田氏は、将門を討った平貞盛の末裔と言われている
1051（永承 6）	●前九年の役（～1062） 東北地方における安倍頼時と源頼義・清原武則による争い。この戦で安倍氏は滅亡。築田助衡が義家に従軍したと言われている
1083（永保 3）	◇後三年の役（～1087） 東北地方での清原一族と源義家・清原清衡（のちの藤原清衡）の争い。義家が勝利し、清衡は奥州藤原氏の祖となる
1192（建久 3）	◇鎌倉幕府の成立（～1333） 源頼朝が征夷大将軍となる
1334（建武元）	◇建武の親政（～1337） 後醍醐天皇が天皇中心の政治を始める
1338（延元 3）	◇室町幕府の成立（～1573） 足利尊氏が征夷大将軍となり室町に幕府を開く
1349（正平 4）	●鎌倉府の設置 関東8か国を治めるため、尊氏は子足利基氏（もとうじ）を鎌倉に下向させ、鎌倉府を置き長官（鎌倉公方）とする。補佐役として関東管領（主に上杉氏が世襲）も置く
1367（正平 22）	●足利基氏没（鎌倉公方初代）
1368（正平 23）	◇足利義満が3代将軍（～1480）
1398（応永 6）	●足利氏満没（鎌倉公方2代）
1399（応永 6）	●応永の乱 大内義弘が幕府に反乱。足利満兼（3代鎌倉公方）が大内義弘に加勢するため京に向かうが、途中で乱の終息を知り鎌倉へ引き返す
1404（応永 11）	◇勘合貿易始まる 倭寇と区分するために勘合札（割符）を持たせる
1409（応永 16）	●足利満兼没（鎌倉公方3代）
1416（応永 23）	●上杉禅秀の乱（～1417） 上杉氏憲（禅秀・前関東管領）が足利持氏（4代鎌倉公方）に反して挙兵する。公方持氏は幕府の討伐軍とともに乱を鎮圧。その後、残党狩りと称して京都扶持衆の宇都宮持綱などの反持氏派を粛清する
1419（応永 26）	●上杉憲実が関東管領に就任 関東管領憲実が義久の元服に関して公方持氏に諫言し、公方と関東管領の関係が悪化する
1437（永享 9）	●上杉憲実が鎌倉を脱出 公方持氏が関東管領憲実を暗殺するとのうわさが流れ、憲実は領国の上野国に逃げる

1438(永享 10)	<p>●永享の乱</p> <p>公方持氏と関東管領憲実の対立を発端とし、6代将軍義教が持氏討伐を命じた戦い。持氏は敗北し嫡子義久と共に自害(1439年)。鎌倉府の滅亡</p> <p>築田河内守、築田出羽守が義久を守って戦ったが討死する</p>
1439(永享 11)	<p>●足利持氏没(鎌倉公方4代)</p>
1440(永享 12)	<p>●結城合戦(～1441)</p> <p>幕府と結城氏ら関東の諸豪族との戦い。6代将軍義教が実子を鎌倉公方として下向させようとする持氏残党と結城氏朝・持朝親子が持氏の遺児安王丸、春王丸を擁立し、同族、兄弟が、結城氏と関東管領上杉清方(幕府)に分かれて争う。</p> <p>幕府方に攻められ結城城は落城。安王丸・春王丸は捕えられ、京都への護送中、美濃垂井で殺される</p>
1441(嘉吉元)	<p>◇嘉吉の乱(かきつものらん)</p> <p>赤松満祐(播磨・備前・美作守護)、6代将軍義教を暗殺し幕府討伐軍に討たれる</p>
1443(嘉吉 3)	<p>◇足利義政が8代将軍に</p>
1448(文安 5)	<p>●幕府は関東管領に上杉憲忠(憲実の子)を任命</p>
1449(宝徳元)	<p>●鎌倉府の再興</p> <p>関東諸将の要請により、成氏(持氏の遺児・永寿王丸)が鎌倉府を再興。鎌倉公方と関東管領は仇敵の二世同士となる。成氏は公方方の結城氏、里見氏、小田氏等を重用したが、管領方の武将を軽視したことで享徳の乱の火種になる</p>
1450(宝徳 2)	<p>●江ノ島合戦</p> <p>長尾景仲(山内上杉家家宰)、太田資清(扇谷上杉家家宰)らが500騎の軍勢で鎌倉の成氏を攻める。成氏は江ノ島へ逃げるが、成氏方の小山持政・千葉胤将・小田持家・宇都宮等綱らの迎撃にあって敗走する。後に和解</p>
1454(享徳 3)	<p>●享徳の乱(～1483)</p> <p>成氏が関東管領上杉憲忠を謀殺したことにより、鎌倉公方方と幕府・上杉氏方に分かれて争う</p>
1455(康正元)	<p>●古河公方の誕生</p> <p>成氏は、幕府軍を迎え撃つため鎌倉へ出兵するが敗れて武蔵国府中に撤退するも、その後騎西城の武蔵七党を攻めるなど、北関東を転戦している隙に鎌倉府を今川範忠に占拠されたことから、鎌倉には帰らず古河城に入ったことで、古河公方と呼ばれた。関宿城に築田氏、栗橋城に野田氏を配置する。</p> <p>上杉房顕(憲実の子)は、幕府から関東管領に任命され下向し成氏と戦う。</p>
1456(康正 2)	<p>●利根川を挟んで東西で対立</p> <p>享徳の乱により、当時江戸湾に流れていた利根川を境にして、東側は古河公方方に、西側は関東管領方に勢力が二分される。成氏は築田出羽守を派遣し、市川城の千葉実胤を攻めて落城させている。</p>
1457(長禄元)	<p>●堀越公方</p> <p>将軍義政は、成氏に対抗するため、異父兄政知を鎌倉公方として下向させるが、鎌倉に入れず、手前の伊豆の堀越に館を構えたことから、堀越公方と呼ばれた。</p>
1462(寛正 3)	<p>◇このころ畿内で土一揆が多発する</p>
1467(応仁元)	<p>◇応仁の乱(～1477)</p> <p>8代将軍義政の後継者争いなど複数の要因によって発生。管領細川勝元と侍所所司山名持豊(出家して宗全)など、有力守護大名による争いで全国に拡大した。</p>
1471(文明 3)	<p>●古河城が落城</p> <p>山内上杉家家宰長尾景信(景仲の子)に古河城を攻められ落城、成氏は千葉孝胤</p>

	を頼り臼井城へ落ちる
1472 (文明 4)	●古河城を奪還 築田氏、野田氏、佐々木氏らが古河城を奪回。成氏は古河へ帰城する
1476 (文明 8)	●長尾景春の乱 (~1480) 山内上杉家の家宰であった長尾景信 (景春の父) の死去により、山内上杉家当主の顕定が家宰を叔父の忠景に決められたことが不満で起こした反乱。扇谷上杉家家宰の太田道灌によって鎮圧される
1478 (文明 10)	●成氏が両上杉家と和議 成氏は、築田中務太輔 (なかつかさのたいふ・成助) を使者として、山内上杉家の家宰長尾忠景に和議を申し入れ、両上杉家と和睦する
1482 (文明 14)	●都鄙合体 (とひがったい) 戦いに飽いた成氏は、両上杉家を支援してきた將軍義政 (幕府) と和睦する ●築田持助没
1485 (文明 17)	◇山城の国一揆 山城国 (京都府) で土着の武士と農民が、守護大名を追い出し 8 年間自治を行う
1486 (文明 18)	●道灌暗殺される 扇谷上杉家の当主定正は、上杉顕定にはかられ家宰の太田道灌を暗殺する
1487 (長享元)	●長享 (ちょうきょう) の乱 (~1505) 山内上杉家 (当主顕定・関東管領) と扇谷上杉家 (当主定正) の争い。消耗戦となり、両上杉家の衰退を招く、伊勢宗瑞 (いわゆる北条早雲) の進出を許すことになる。
1488 (長享 2)	◇加賀の一向一揆 加賀国 (石川県) で、一向宗門徒が守護の富樫氏を追い出し、約 100 年間の自治を行う
1489 (延徳元)	◇8代將軍義政が銀閣寺を建立 (東山文化)
1495 (明応 4)	●伊勢宗瑞、大森氏を追い小田原城へ入城
1497 (明応 6)	●古河公方足利成氏 (初代) 没し、政氏 (成氏の弟) 公方に
1506 (永正 3)	●足利高基 (政氏の子)、政氏と対立し宇都宮へ移る
1509 (永正 6)	●関東管領上杉顕定の仲介で高基、古河へ戻る
1510 (永正 7)	●高基再び政氏と対立し、築田氏の関宿城へ移る
1512 (永正 9)	●築田成助没 ●公方政氏、高基との政争に敗れ、小山氏の祇園城に移り、高基が古河城に入る
1516 (永正 13)	●政氏、岩付城に移り、その後久喜の甘棠院で隠遁
1528 (享禄元)	●高基の嫡子晴氏が元服
1531 (享禄 4)	●足利政氏没 (古河公方 2 代)。 築田政助は最後まで政氏に従っていたといわれる。
1535 (天文 4)	●足利高基没 (古河公方 3 代)。晴氏公方となる
1538 (天文 7)	●第一次国府台合戦 北条氏綱と小弓公方足利義明による戦い。義明は討死し里見義堯 (さとみよしとか) は安房に逃れる ※義明北上関宿攻略説 義明の目標は、鎌倉ではなく、関宿だったとする説。正当な古河公方を主張する義明が、古河に入るには前線基地の関宿城を抑える必要があったことから、小弓入城以来、関宿攻略の意向を里見氏に伝えていた。関宿に向かうルートとして、佐倉の千葉氏 (北条方) の勢力圏外を通るため太日川をさかのぼって関宿を目指したが、対岸の葛西を領していた北条氏がこの動きを容認

	できず合戦に及んだという。
1539(天文8)	●北条氏綱、高助に公方晴氏と芳春院(氏綱の娘)と婚姻に関する起請文を発行
1541(天文10)	●晴氏、芳春院の間に義氏誕生 ●北条氏綱没(2代) ◇武田信玄、父信虎を追放
1542(天文11)	◇斉藤道三(どうさん)が美濃を支配
1543(天文12)	◇鉄砲伝来 ポルトガル人が種子島に鉄砲を伝える
1546(天文15)	●河越合戦(日本三大奇襲・三大夜戦のひとつ) 上杉憲政(山内上杉家)、上杉朝定(扇谷上杉家)、古河公方足利晴氏の連合軍が北条氏の拠点・河越城(北条綱成)を攻めた奪還戦。城を包囲する連合軍に対して、夜襲をかけた北条方が勝利した。憲政は拠点の上州国平井城へ、晴氏は古河へ敗走した。扇谷家当主の朝定が討死し扇谷上杉家は滅亡
1549(天文18)	◇キリスト教伝達 フランシスコ・ザビエルが鹿児島に来てキリスト教を伝える
1550(天文19)	●築田高助没
1552(天文21)	●山内上杉家当主の憲政が上野から越後の長尾景虎(のちの上杉謙信)のもとへ ●公方晴氏、河越合戦の責めを負い義氏(母が北条氏)に家督を譲り、義氏が公方に
1554(天文23)	◇武田信玄・今川義元・北条氏康が甲駿相三国同盟
1555(弘治元)	◇川中島の戦い(1553~1564・2回目の合戦) 謙信と武田信玄による戦い ◇厳島の戦い 毛利元就と陶晴賢による戦い
1558(永禄元)	●関宿城が公方義氏の御座所とされ、築田氏は古河城に移る
1559(永禄2)	◇織田信長、尾張を統一
1560(永禄3)	●関東管領憲政の要請により謙信が関東に南進 ◇桶狭間の戦い 信長が義元を討ち取った戦い ●足利晴氏没(古河公方4代)
1561(永禄4)	●謙信、小田原城を包囲 小田原城に迫るが攻めあぐね撤兵。帰路の途中、鶴岡八幡宮で憲政から上杉の名跡と関東管領職を譲り受ける ●謙信、関宿城を攻め、義氏は関宿城を脱出 下総国小金城に逃げ、以後居場所を転々とする
1562(永禄5)	●足利藤氏(晴氏の子・築田氏が母)が古河城に入城 北条氏に攻められ、落ちて安房国里見氏のもとへ ●関宿城に築田氏が戻る ◇尾三同盟 信長と徳川家康が同盟
1564(永禄7)	●第二次国府台合戦 氏康配下の太田康資(江戸城主)が謙信へ寝返るが失敗し同族の資正(岩付城主)に逃れ、里見義弘(義堯の嫡男)が救援のため国府台城へ。里見氏と北条氏の争い。里見氏が敗退。
1565(永禄8)	●第一次関宿合戦 氏康、江戸城と岩付城を前線基地として関宿城を攻撃。落とせず撤退。

	◇永禄の変 三好三人衆と松永久秀が將軍義輝を殺害
1566(永禄9)	●足利藤氏没(築田氏の血を引く公方晴氏の子)
1567(永禄10)	●氏政・義氏ら、晴助・持助親子に起請文を呈し和睦
1568(永禄11)	●北条氏照(氏政の弟)栗橋城主に ●第二次関宿合戦 関宿城の対岸、山王山、不動山に砦を作り、栗橋城と合わせて関宿城を攻撃する。氏康、信玄の駿河侵攻で甲駿相三国同盟が崩壊し、周囲が敵となり、謙信と同盟を結ぶ。越相同盟により築田氏(謙信と同盟締結済)の攻撃を止め合戦が終息 ◇信長、畿内を平定 義昭が15代將軍に就任
1569(永禄12)	●信玄、晴助に書状 北条氏の攻撃を要請 ●公方義氏、鎌倉から古河に戻る
1570(元亀元)	◇姉川の戦い 信長・家康連合軍と浅井長政・朝倉義景の連合軍の戦い。信長連合軍の勝利
1571(元亀2)	●信玄、藤政(藤氏の弟)を公方擁立へ 関東に進出する大義名分。関宿城への入城を画策 ●北条氏康没(3代) ●越相同盟の解消 氏政、謙信と同盟を解消し信玄と手を結ぶ。謙信、築田氏を救援しようとするものの北条氏に阻まれ、築田氏は孤立 ◇比叡山延暦寺焼き討ち 信長が比叡山延暦寺の焼き討ちを行う
1572(元亀3)	◇三方ヶ原の戦い 信玄と家康の戦い。家康の惨敗
1573(天正元)	●第3次関宿合戦 北条氏が3回目となる関宿城の攻撃を始める ◇室町幕府の滅亡 信長が15代將軍義昭を追放し、室町幕府が滅びる ◇武田信玄没。子の勝頼が後を継ぐ ◇一乗谷の戦い 信長と義景の戦い。朝倉氏の滅亡 ◇小谷城の戦い 信長と長政の戦い。朝倉氏の滅亡
1574(天正2)	●氏政、氏照の関宿城攻撃が本格化 築田氏が救援要請した謙信、佐竹義重は動けず、築田氏は関宿城を開城し、水海城に逃れる。藤政自害。
1575(天正3)	◇長篠の戦い 信長と勝頼の戦い。信長が勝利
1576(天正4)	◇安土城の完成 信長が安土(滋賀県)に城を築く
1578(天正6)	◇上杉謙信没
1580(天正8)	●佐竹義重、古河城を攻撃。水海城も攻められるが晴助親子が撃退する。

1582(天正 10)	<ul style="list-style-type: none"> ●信長、滝川一益を関東に派遣 事態收拾のために公方義氏が晴助、持助親子に相談 ◇本能寺の変 信長が家臣の明智光秀の謀反により京都本能寺で討たれる ◇山崎の合戦 羽柴秀吉と光秀の戦い。光秀が敗れる ◇清州会議 信長の後継者選びの会議。山崎の合戦で弔い合戦をした秀吉の主張が通り、孫の織田秀信が後継者に、秀吉が後見人となる
1583(天正 11)	<ul style="list-style-type: none"> ◇賤ヶ岳の戦い 秀吉と柴田勝家の戦い。秀吉の勝利 ●足利義氏没（古河公方 5 代） 古河公方の消滅
1584(天正 12)	<ul style="list-style-type: none"> ◇小牧・長久手の戦い 秀吉と織田信雄（信長の子）・家康の連合軍の戦い。小競り合いはあったが和睦
1585(天正 13)	<ul style="list-style-type: none"> ◇秀吉、関白・太政大臣に
1587(天正 15)	<ul style="list-style-type: none"> ◇秀吉、九州平定 ●築田持助没
1590(天正 18)	<ul style="list-style-type: none"> ●秀吉、関東平定 小田原の北条氏を平定。嫡流の晴助は、浅野長政と親交から秀吉方に属し、傍流の水海系築田氏は北条氏に従い滅びる ◇家康、関東入部 異父弟松平康元を関宿城に配置。関宿藩が成立 ●築田貞助（晴助の孫）、浅野長政の推挙で家康に仕える
1592(文禄元)	<ul style="list-style-type: none"> ◇文禄の役（～1593） 秀吉による第 1 回目の朝鮮出兵
1594(文禄 3)	<ul style="list-style-type: none"> ●築田晴助没
1597(慶長 2)	<ul style="list-style-type: none"> ◇慶長の役（～1598） 秀吉による第 2 回目の朝鮮出兵。秀吉没（1598）
1600(慶長 5)	<ul style="list-style-type: none"> ◇関ヶ原の合戦 家康と石田三成による戦い。家康が勝利
1603(慶長 8)	<ul style="list-style-type: none"> ◇家康、征夷大將軍に 江戸幕府を開く
1614(慶長 19)	<ul style="list-style-type: none"> ◇大坂冬の陣 家康、大坂城の豊臣秀頼（秀吉の子）を攻めるが、難攻不落の大坂城を攻めきれず和議を結ぶ
1615(元和元)	<ul style="list-style-type: none"> ●大坂夏の陣 家康、再度大坂城を攻める。築田貞助・助吉親子、徳川方で従軍し討死。築田氏の直系男子が絶える
それ以降	<ul style="list-style-type: none"> ●助吉の妹が子の助政に家督し築田家を再興 幕藩体制内で御留守居与力等として家名を存続